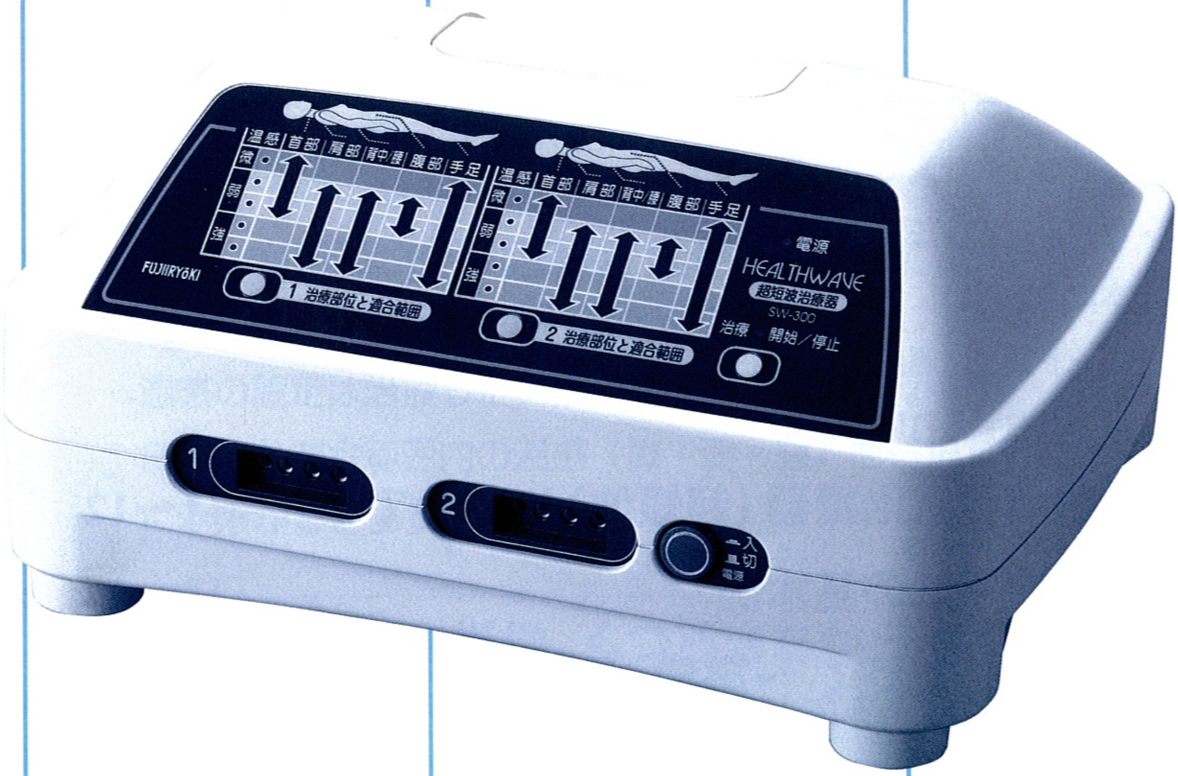
FUJIIRYōKI

家庭用超短波治療器

HEALTHWAVE
ヘルスウェーブ

SW-300

取扱説明書



管理医療機器
医療機器承認番号21200BZZ00175000

HEALTHWAVE

このたびは「ヘルスウェーブ」をお買い求めいただき、ありがとうございました。ヘルスウェーブをご使用いただく前に、本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用ください。また、いつでもお読みいただけるよう、ヘルスウェーブ本体と取扱説明書、保証書とを一緒に大切に保管してください。

目次

●目次 …… 1
●ヘルスウェーブの特長と主な仕様 …… 2
●安全上のご注意 …… 3〜4
・はじめに（正しく安全にご使用いただくために）
・次のような場合は使用しないでください
●各部の名称とはたらき …… 5〜6
●使用上のご注意 …… 7〜10
・身体に合った治療をしてください
・使用場所や状況について
・電源・配線は正しく
・本体の取扱いについて
・コード類（付属品、電源コード）の取扱いについて
・保管とお手入れについて
●家庭用電気治療器（超短波）について …… 11〜12
●超短波療法の基本例 …… 13〜14
●使用にあたって 〜準備〜 …… 15〜16
●使用順序 …… 17〜19
●検波器の使い方 …… 20
●操作早わかり …… 21
●故障かなと思ったら・修理サービスについて …… 22
●フジ医療器サービス網 …… 裏表紙

HEALTHWAVE

ヘルスウェーブの特長と主な仕様

1　体にやさしい超短波の効能・効果があります

体の芯からポカポカと温め、血行を良くする超短波の「温熱効果」

- 疲労回復
- 筋肉の疲れをとる
- 血行を良くする
- 神経痛・筋肉痛の痛みの緩解
- 筋肉のこりをほぐす
- 胃腸の働きを活発にする

2　2つの導子を使い、より効果的な治療を行えます

- 2つの導子で2カ所の部位が同時に治療できます。※超短波の出力は交互
- 2つの導子で挟むようにして治療できます。（腹部と腰など）
- もちろん一つの導子で、治療部位1カ所だけの治療も行なえます。

3　治療部位に応じた温感の選択により簡単に治療ができます

温感の設定は治療したい部位（首部・肩部・背中/腰・腹部・手足）に応じた適合範囲内の温感（微・弱・強）を選択することで、簡単に治療ができます。

4　シンプル操作、くつろぎながら治療できます

分かりやすい表示、シンプルな操作。しかも、服を着たまま、くつろぎながら治療できます。毎日でも手軽に使えるから便利です。

主な仕様

定格電圧	AC100V,50/60Hz
定格消費電力	61W
本体寸法	幅338×奥行284×高さ154（mm）
本体重量	約3.1kg

HEALTHWAVE

安全上のご注意

～正しく安全にご使用いただくために～

はじめに

- この取扱説明書は「ヘルスウェーブ」を安全にお使いいただくために必要です。
  本治療器を人に貸したり、差し上げる時には必ずこの取扱説明書を一緒にお渡しください。
- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよく読み、正しくお使いください。
- あなたや他の人への危害や損害を未然に防止するために、下記のような絵表示をしています。危害や損害の程度を表していますので、内容を理解してから本文をお読みください。

⚠ 危険	取扱いを誤ると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示します。
⚠ 警告	取扱いを誤ると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
⚠ 注意	取扱いを誤ると、人が傷害を負う可能性または物的損害が想定される内容を示します。

表示例

は、**「危険・警告・注意」**を促す内容です。

は、してはいけない**「禁止」**の内容です。
※表示例は「分解禁止」です。

は、行為を指示する**「強制」**の内容です。
※表示例は「プラグをコンセントから抜く」です。

HEALTHWAVE

～次のような場合は使用しないでください～

⚠危険

下記のような医用電気機器の使用者は使用しないでください。
また、下記のような医用電気機器の使用者の近くでも使用しないでください。医用電気機器の誤作動をまねく恐れがあります。

1）ペースメーカー等の体内植込型医用電気機器
2）人工心肺等の生命維持用医用電気機器
3）心電計等の装着型医用電気機器

⚠危険

次のような部位への使用は避けてください。

1）出血部位または月経時の腹部
2）体内に金属、プラスチック等を埋め込んである部位
3）頭部・顔面、心臓

次のような場合は使用しないでください

1）病名などがはっきりしない場合。
病状によっては本器が適さない場合があります。その場合は医師に相談してください。
2）他の治療器とは同時に使用しないでください。
過度な刺激を受けたり、体調を損なったり、器械の故障の原因となることがあります。使用する場合は時間をずらして使用してください。
3）皮膚感覚が低下している部位には使用しないでください。
皮膚は熱くなっているにもかかわらず温感を感じないので、火傷の原因となります。
4）塗り薬が塗られている場合は、必ず拭きとってください。

⚠警告

次の人は必ず医師とご相談の上、使用してください。

- 急性（疼痛性）疾患の人
- 悪性腫瘍のある人
- 妊娠している人
- 心臓に障害のある人
- 熱の高い人（38℃以上）
- 血圧に異常のある人 ＊1
- 知覚障害のある人 ＊2
- 安静を必要とする人
- 低温やけどをしたことのある人
- 適用部位の皮膚に異常のある人
- その他、医師の治療を受けている人や体に異常を感じている人

次の人は、使用しないでください。

- お酒を飲んだ人
- 睡眠薬を飲んだ人
- 乳幼児

次の人は、介護者のもとで使用してください。事故の原因となります。

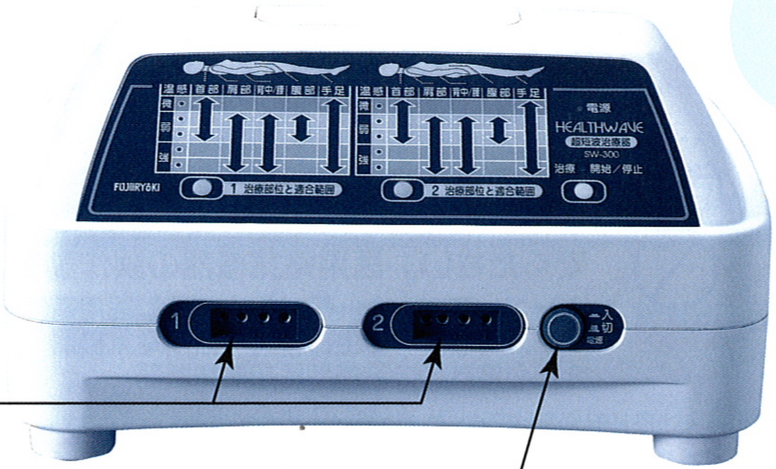
- マヒのある人
- 意思表示ができない人
- 寝たきりの人
- 12歳以下の子供

＊1　血圧に異常がある人とは脳出血、内出血など血管障害の恐れのある血圧異常者。
特に最高血圧または、最低血圧が一日のうちに50mmHg以上変動する人をいう。
＊2　温熱に対して感覚の鈍い人（特に糖尿病患者などに多い）

火傷などの原因となりますので、超短波導子は素肌の上から直接あてず、必ず乾いたタオルや服の上からあててください。ただし、導電性の衣服を着用しての使用は行わないでください。
また、治療中に超短波導子やコードが素肌に触れないようにご注意ください。導子やコードを動かす場合は、一度電源を切ってください。

各部の名称とはたらき

本体正面



出力口1・2

導子のプラグの差込口です。
治療箇所が１カ所の場合は、出力口1又は2のいずれか一方をお使いください。

2つの導子を使う場合は、導子のプラグをそれぞれ、出力口1と出力口2に差込んでください。

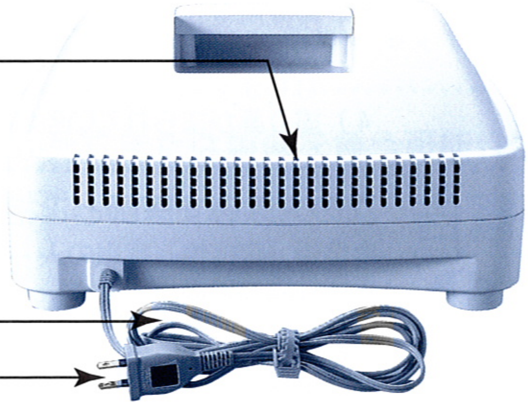
電源スイッチ

スイッチを押して、電源の「入」「切」を行います。電源が入ると「電源表示」が点灯します。導子が差し込まれている側の「温感表示」の微及び「治療表示」が点滅します。

「切」の状態　「入」の状態

※導子が出力口1と2、どちらにも差し込まれていない状態で電源を入れるとエラー音が鳴ります。

本体背面



通気孔

布団をかぶせたり、壁に近寄せすぎたりして通気孔をふさがないでください。
本体内部が熱をもち、故障の原因となります。

電源コードと電源プラグ

家庭用コンセント（AC100V）にプラグを差し込みます。使用しないときは必ずコンセントから抜いてください。

付属品について

超短波導子（2個）

使い方は13～16ページ

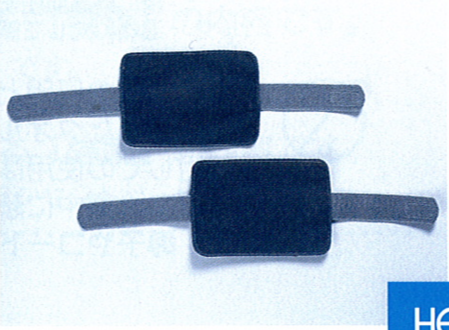
治療する部位（箇所）にあてます。必ずベルト付導子カバーに入れて使用してください。
二つの導子を使って治療することができます。
※マークのある面をからだ側にあてます。

ベルト付導子カバー（2個）

※必ずご使用ください

使い方は13～16ページ

超短波導子専用のカバーです。
治療したい部位にカバー付属のマジックベルトで固定します。



HEALTHWAVE

※予告なしにデザインや色が変更になることがあります。予めご了承ください。

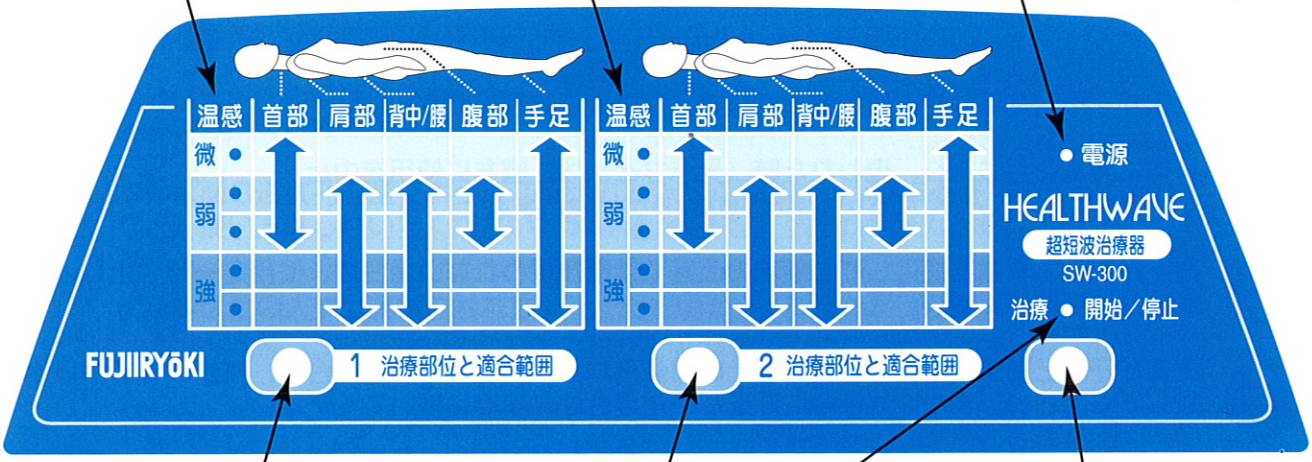
操作パネル

温感表示

「治療部位と適合範囲」スイッチを押して治療する部位にあった温感を選択してください。
スイッチを1回押すごとに温感表示が移動します。
「微」→「弱」→「弱」→「強」→「強」→「微」

電源表示

電源が入ると点灯し、電源が切れると消えます。



「治療部位と適合範囲」スイッチ

出力口1に差し込んだ導子の温感設定は
「1 治療部位と適合範囲」スイッチで行います。

出力口2に差し込んだ導子の温感設定は
「2 治療部位と適合範囲」スイッチで行います。

タイマー（自動終了機能）について

電源を入れ、「治療部位と適合範囲」スイッチで温感設定後、「治療開始／停止」スイッチを押すと治療を開始します。20分後、自動的に終了します。

治療表示

治療中は点灯し、停止時には点滅します。

「治療開始/停止」スイッチ

スイッチを押して、治療の開始（出力する）、停止（出力しない）を行います。開始・停止は上の治療表示で確認できます。

※治療を開始すると20分後、自動的に終了しますが、途中停止させる場合は、再度スイッチを押してください。

マジックベルト（S）（2本）

使い方は16ページ

ベルト付導子カバーのマジックベルトだけでは短い場合、継ぎ足して使用します。

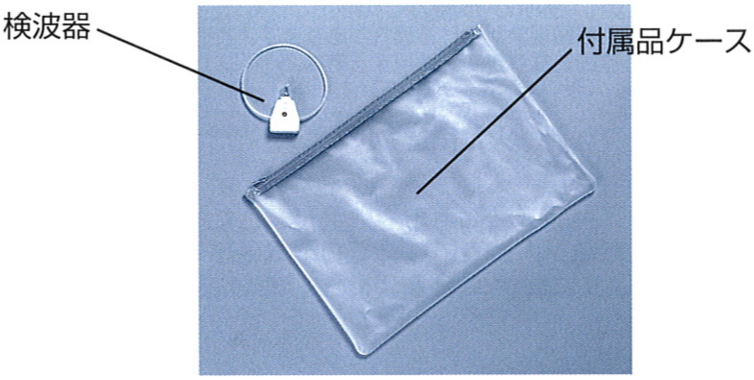
検波器（1個）

使い方は20ページ

超短波が発振（出力）しているか、確認することができます。

付属品ケース（1個）

付属品の収納ケースです。使用後、付属品は清潔にし、整理保管してください。



使用上のご注意

身体に合った治療をしてください ⚠警告 体調の悪化や事故の原因となります。

人の治療や日頃の健康づくり以外の目的には、絶対に使用しないでください。
事故や故障の原因となります。

治療中、温感や刺激が高すぎると感じた時は、我慢せずに温感設定を下げてください。または、タオル等を導子に巻いて熱さを弱めて治療してください。
無理して治療を続けると火傷の原因となります。

治療時間や温感設定、治療回数などは年齢や体調などにより個人差があります。不明な点はフジ医療器お客様相談窓口にご相談ください。

身体に異常を感じたり、現われた時（発赤など）は、直ちに使用を中止し、医師に相談してください。症状が悪くなることがあります。

数ヶ月以上、本器を使用しても症状の改善や効果が現われない場合は、使用を一時中止し、医師または専門家に相談してください。

皮膚が汗などで濡れている場合、または塗膏剤などが塗られている場合は、拭き取ってから治療してください。また、治療中に汗をかいた場合は、すぐに拭いてください。
皮膚が濡れたままで治療をすると火傷の原因となります。

超短波治療法の基本例（13～14ページ）で、定められた治療時間を超えないでください。

使用場所や状況について ⚠危険 火傷や発火などの事故や故障の原因となります。

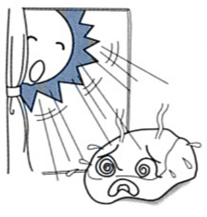
導電性衣類（ラメ入り、金糸、銀糸入りや炭素繊維・サンダーロン®・静電防止用繊維など）を着用して治療しないでください。（一般的な天然及び合成繊維を使用した衣類は心配ありません）
火傷や発火の原因となります。

使い捨てカイロや金属類（ネックレス、ベルト、時計、メガネ、イヤリングなど）は、体から外してください。火傷などの事故の原因となります。

他の治療器（電位治療器等）の電床マットの上では絶対に使用しないでください。
電床マットが焦げて火傷、火災等の恐れがあります。

使用場所や状況について ⚠警告 感電、火傷などの事故や物的損害、故障の原因となります。

風呂場、台所、車の中、直射日光の当たる場所など、温度や湿度の高い場所やほこりの多い場所で使用したり保管しないでください。
機器の寿命を縮め、感電や故障の原因となります。



本体を寒い場所から暖かい場所に、いきなり移動して使用しないでください。
本体内部で結露現象が生じる恐れがあります。この状態で使用すると表示部の誤作動や故障の原因となります。使用する時は2時間以上経過してから電源を入れてください。

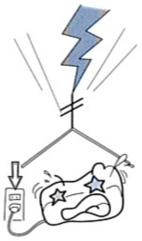
ストーブなど、火気に近づけないでください。本体の変形などで事故の原因となります。

他の電気製品（電気毛布や敷毛布、こたつ、あんかなど）との同時使用はしないでください。また、電源が入っていなくても電気毛布や敷毛布、電気カーペットの上では使用しないでください。過度な刺激で体調を損なったり、電気製品が誤作動したり、焦げるなど事故の原因となります。

他の電気製品（テレビやラジオなど）とはできるだけ距離をあけて使用してください。電源もタコ足とならないように別のコンセントを使用してください。テレビやラジオなどに雑音が入ることがあります。また、他の電気製品が異常を起こしたり、逆に電気製品の影響で異常が発生する恐れがあります。

使用を中断する場合や、使用後は必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。導子のプラグも出力口から抜くなど、使用前の状態に戻してください。

使用中の導子を本体や金属類（電気製品、ワゴン、ラメ入りの畳や座布団など）の上に絶対に置かないでください。また、二つの導子が重なる状態で放置しないでください。
熱をもち事故や故障の原因となります。

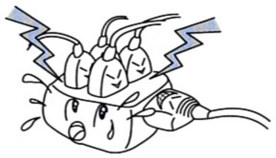


雷や地震、停電時は使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
復帰時に事故や故障の恐れがあります。

本体背面の通気孔を塞ぐような（布団の上や下に置いたり、壁に近寄せすぎるなど）使い方はしないでください。本体内部が熱をもち、故障の原因となります。

使用中は他の人や金属類に触れないでください。ピリッとしたり、火傷の原因となります。

電源・配線は正しく　⚠警告　感電、火傷などの事故や物的損害、故障の原因となります。



AC（交流）100V以外では使用しないでください。
規格の異なる電源での使用は発火、ショート、感電などの原因となります。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしないでください。
タコ足配線などで、定格を超えると発熱による火災の原因となります。

電源プラグはコンセントに確実に差し込んでください。また、プラグの破損や差し込みがゆるい場合は使用しないでください。差し込みが不完全の場合、感電、ショート、発火の原因となります。

濡れた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。

本体の取扱いについて　⚠危険　発火、感電などの事故や故障の原因となります。

本体や付属品を勝手に修理したり、改造しないでください。
発火したり事故の原因となります。故障かなと思ったら使用を中止し、ご購入先へお問合わせください。

本体カバーは絶対に開けないでください。
内部は高電圧が発生しており、感電する恐れがあります。

本体を高い所から落としたり、強い衝撃を与えないでください。
誤って落とした場合は必ず点検を受けてください。その時に異常がなくても
内部の損傷が進み、後に事故や故障の原因となることがあります。

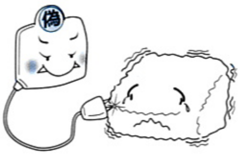
故障かなと思ったら、使用を中止し、22ページの「故障かなと思ったら」を確認の上、ご購入先または、フジ医療器サービス網へご連絡ください。

使用上のご注意

本体の取扱について　⚠警告　発火、感電などの事故や故障の原因となります。

使用の際は正しく作動することを確認してください。また、6ヶ月以上使用しなかった場合は、再使用する前に本体が正常かつ、安全に動作することを確かめてください。
本体と付属品が正常かつ安全に作動するか確認しましょう。

定められた手順で操作してください。また、子供には操作させないでください。操作を誤ると事故や故障の原因となります。



他の治療器の部品や付属品などを流用しないでください。
規格や仕様が異なるため、事故や故障の原因となります。

本体に音、光、熱、煙など異常を感じた時は、直ちに使用を中止し、ご購入先またはフジ医療器サービス網へ連絡してください。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体の上に重い物や飲み物などを置かないでください。
水などが本体内部に入ると発火・ショートなど事故や故障の原因となります。

出力口に金属製の棒やハサミ、ピン類などを差込まないでください。
感電、スパーク、発火の原因となります。

二つの導子を重ねた状態で通電又は使用しないでください。
導子内部の温度が上がり、事故や故障の原因となります。

コード類（付属品・電源コード）の取扱いについて

⚠警告　火傷や感電、発火などの事故や故障の原因となります。

超短波導子を使用する際は、次の点に注意して正しく使用してください。
事故や故障の原因となります。

- 導子は消耗品です。より安全にお使いいただくために、使用状態により異なりますが、1年をめやすに点検をしてください。長年使用すると、コードの断線などで火傷・火災などの事故の原因となります。
- 導子やコードに亀裂などの不具合が生じている時はすぐ使用を中止してください。危険ですから、ご購入先またはフジ医療器サービス網へご連絡の上、新しいものをお求めください。
- 長期間ご使用にならない時は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化による感電や漏電火災の原因となります。
- 導子が濡れていたり、湿っている場合は十分に乾燥させてから使用してください。但し、ドライヤーを使用したり、ストーブにあてるなど急激な乾燥はしないでください。
- 導子は折りたたんだり、きつく丸めたりして使用しないでください。
- 導子のコードが絡んだり、巻き付いた状態で使用しないでください。絡みの部分が発熱したり、出力が変わり半減することがあります。

使用中導子及びコードには金属類を近づけないでください。感電・スパーク・火傷の原因となります。また、他の電気製品や治療器のコードと交わらないようにしてください。他の電気製品に異常を起こすなどの恐れがあります。

本体の出力口に差し込んだプラグを踏みつけたり、大きな力を加えたりしないでください。
プラグや出力口が破損し、事故や故障の原因となります。

使用中、導子プラグの抜き差しをしないでください。（19ページ「エラー音について」参照）
また、抜く時は必ず電源を切ってから行ってください。

コード類は容易に離脱しないようにプラグを正しく、根元まで確実に差し込んでください。発火やショートなどの原因となります。

コード類の抜き差しは必ずプラグを持って行ってください。
コードを持って行うと断線や感電、ショートなどの原因となります。

コード類を傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり束ねたり、重い物をのせたり挟み込んだりしないでください。
寿命を縮め、火災、感電、事故などの原因となります。

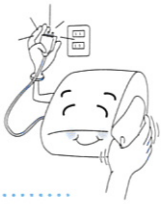
コード類のプラグにピンやゴミ、ほこりなどを付着させて使用しないでください。
発火、ショートの原因となります。

次のような症状を起こした場合は直ちに使用を中止し、医師に相談してください。
ベルト付導子カバーとマジックベルトは天然ゴムを使用しています。天然ゴムはかゆみ・発赤・じん麻疹・むくみ・発熱・呼吸困難・喘息様症状・血圧低下・ショックなどのアレルギー性症状をまれに起こすことがあります。

保管とお手入れについて ⚠警告 発火、感電などの事故や故障の原因となります。

本体や付属品は、次回の使用に支障がないように清潔にし、整理保管しましょう。

本体について



お手入れの際は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、濡れた手でプラグの抜き差しをしないでください。感電など事故の原因となります。

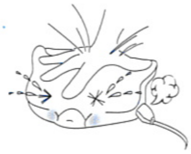
変色の原因となるのでシンナー、ガソリン、灯油などの揮発油や磨き粉、熱湯、薬品類で拭かないでください。水またはぬるま湯を含ませた布を固く絞り、拭いてください。

お子様の手の届かない所に保管してください。
落としてけがや破損の原因となります。

温度や湿度の高い所、ほこりの多い所での保管はしないでください。
劣化をはやめ、火災、感電など事故や故障の原因となります。

超短波導子について

次回の使用に支障がないように清潔にし、整理保管してください。また、お手入れは変色の原因となりますので、シンナー、ガソリン、灯油などの揮発油や磨き粉、熱湯、薬品類で拭かないでください。水またはぬるま湯を含ませた布を固くしぼり拭いてください。



導子は折りたたんだり、きつく丸めたり、重い物を乗せたりしないでください。
また、コードは引っ張ったり、ぐるぐる巻きにしないでください。
コードの断線など事故の原因となります。

ベルト付導子カバーについて

お手入れは水またはぬるま湯を含ませた布を固く絞り、拭いてください。汚れがひどい場合には軽く手もみ洗いをしてください。洗濯機で洗濯をしたり、または、手もみ洗いで強く洗ったり、何度も洗ったりしますと縮んだり、変型したりするおそれがあります。

その他 ⚠警告

機器及び付属品、または容器・包装品等廃棄する場合は、環境への影響を少なくするため、地域で定められている規則に従って処分してください。

一度使用した医療機器（中古医療機器）を他に販売、譲渡、または、貸与する場合は、必ず事前に製造販売元へ連絡してください。点検・修理を行い安全を確認された機器以外は販売・賃貸・譲渡・貸与はできません。また、販売・賃貸を行うには、管理医療機器販売業と管理医療機器賃貸業の届けがされていることと、更には、古物営業法の許可を受けていることが必要です。

家庭用電気治療器（超短波）について

物理的刺激を応用した電気治療法（超短波治療法）は、
病院などの機関で広く用いられています。
この療法を、日々の健康づくり・治療に役立てるために、
家庭用として開発されたのが、家庭用電気治療器です。
治療を続けることにより効果を発揮しますが、間違った使用をした場合、
火傷などの事故につながることがあります。
この取扱説明書をよくお読みになり、
注意事項は必ず守り、正しくご使用ください。
健康づくりにお役に立てることと存じます。

健康の3要素について…

病気にかかるとあわてて医者に通ったりするのに、治るとまた不健康な生活に逆戻り。これでは、いつまでたっても健康な生活を送ることはできません。それよりも、病気にならない健康な体をつくることが大切です。
毎日、バランスを考えて食事をとり、適度な運動をし、心や体を休めること。つまり栄養・運動・休養が必要なのです。これを「健康の3要素」と言います。

電気治療法（物理的刺激）の基本原則

超短波治療法はここち良い温感があり、より大きな効果を求め、つい強い出力、長い時間使用してしまいがちです。しかし、物理的刺激は「強く・長い時間」使用すれば効果があるというわけではありません。
超短波治療法の出力は、「ぬるめのお湯」に入浴しているようなここち良い、つい眠ってしまうような温感を感じる程度が一番良いといえます。
この基本原則は、ドイツの生理学者アルント・シュルツ博士の研究に習っており、広く知られています。

アルント・シュルツの法則

弱刺激は生理的作用を起こし、
中程度のものは、これを促進するが、
強刺激は却ってこれを抑制し、
最も強い刺激は、これを停止させる。

超短波治療法とは

超短波は１秒間に数千万回の振動をする電波の一種です。この電波を人に透射すると、電子レンジと同じ様な現象が起こります。
超短波を透射すると、＋と－の電気をもつ細胞の分子が１秒間に数千万回回転運動をして、まさつ運動を起こします。その結果、体内深部より熱が発生します。この熱は、体の表面を暖めるカイロやホットパックとは異なり、体内の深部から発生します。その結果、血液の流れが非常によくなり、消化吸収に大切な胃腸の働きもよくなります。

超短波とは？

１秒間に数千万回も振動する電波の一種。

長い←波長→短い

長波	中波	短波	**超短波**	極超短波（マイクロ波）	赤外線	紫外線

超短波治療器は１秒間に約2,700万回振動（27.12MHz）する電波を使用しています。

超短波治療法の効能・効果

■温熱効果

●疲労回復　●筋肉の疲れをとる　●神経痛・筋肉痛の痛みの緩解

●血行をよくする　●筋肉のこりをほぐす　●胃腸の働きを活発にする

超短波治療法の基本例

特に注意して頂きたいこと

●治療部位が首・足首・ひじ・ひざ等の身体の細い部分では、腰や肩に比べて熱くなりやすいので温感の選択や導子の当て方（乾いた厚手のタオルをはさむ等）には、特に注意してください。

■基本的な使用例　※イラストでは治療する箇所をわかりやすくするた

首の部分に使用するには

背骨を中心に頸部の裏側へ導子を当ててください。

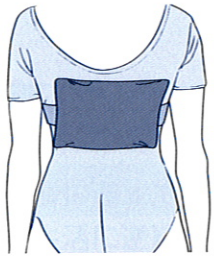
温　感	微～弱
時　間	20 分間
一日の回数	1～2 回

⚠警告

治療時には、導子と頸部の間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

背中に使用するには

肘の高さに、導子の底辺がくるように当ててください。



温　感	弱～強
時　間	20 分間
一日の回数	1～2 回

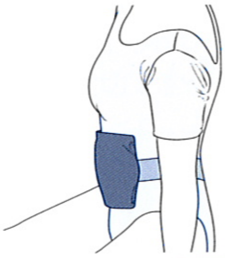
⚠警告

治療時には、衣服の上からまたは導子と背中の間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

ベルトの長さが足りない場合は付属のマジックベルト(S)を使って長さを調整してください。

腹部に使用するには

おへその真上に導子がくるように当ててください。



温　感	弱
時　間	20 分間
一日の回数	1～2 回

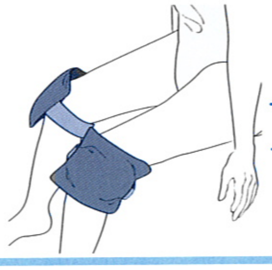
⚠警告

空腹時にはご使用をおひかえください。
治療時には、衣服の上からまたは導子と腹部の間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

ベルトの長さが足りない場合は付属のマジックベルト(S)を使って長さを調整してください。

ひざの部分に使用するには

治療する側のひざの上に導子を当ててください。



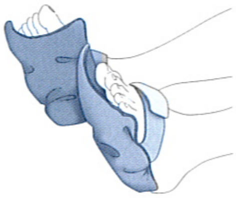
温　感	微～強
時　間	20 分間
一日の回数	1～2 回

⚠警告

治療時には、衣服の上からまたは導子とひざの間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

足の裏に使用するには

足の裏に導子を当ててください。



温　感	微～強
時　間	20 分間
一日の回数	1～2 回

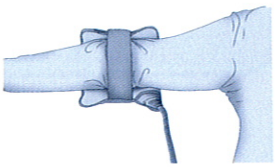
⚠警告

治療時には、くつしたの上からまたは導子と足の裏の間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

一人で導子を当てにくい場合には

1.あらかじめ導子を治療する部位にあわせて丸めます。

2.丸めた導子に、腕などを通し、治療する部位の位置に合わせると、一人でも簡単に導子が当てられます。



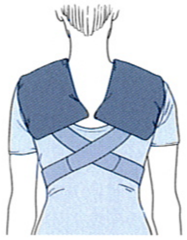
HEALTHWAVE

●導子をマジックベルトで固定する時は強くしばると熱くなりやすいので、
ずれない程度にゆるめに固定してください。
●治療部位に合った温感と時間を必ず守ってください。（個人差があります。多少の増減はかまいません。）

めタオルを描いていません。

肩の部分に使用するには

肩甲骨の上に導子を当ててください。



温　　感	弱 ～ 強
時　　間	20 分間
一日の回数	**1～2** 回

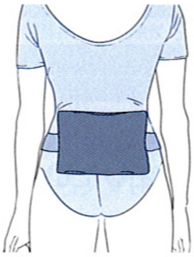
⚠警告

治療時には、衣服の上からまたは導子と肩の間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

ベルトの長さが足りない場合は付属のマジックベルト(S)を使って長さを調整してください。

腰の部分に使用するには

背骨を中心として腰に導子を当ててください。



温　　感	弱 ～ 強
時　　間	20 分間
一日の回数	**1～2** 回

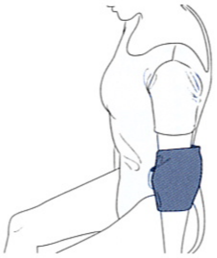
⚠警告

治療時には、衣服の上からまたは導子と腰の間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

ベルトの長さが足りない場合は付属のマジックベルト(S)を使って長さを調整してください。

ひじの部分に使用するには

治療する側のひじに導子を当ててください。



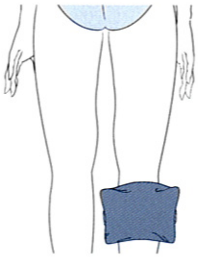
温　　感	微 ～ 強
時　　間	20 分間
一日の回数	**1～2** 回

⚠警告

治療時には、衣服の上からまたは導子とひじの間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

ふくらはぎに使用するには

治療する側のふくらはぎに導子を当ててください。



温　　感	微 ～ 強
時　　間	20 分間
一日の回数	**1～2** 回

⚠警告

治療時には、衣服の上からまたは導子とふくらはぎの間に乾いたタオルをはさんで導子を当ててください。

⚠警告

空腹時には、腹部の超短波治療を行わないでください。
導子は直接素肌に当てて治療しないでください。

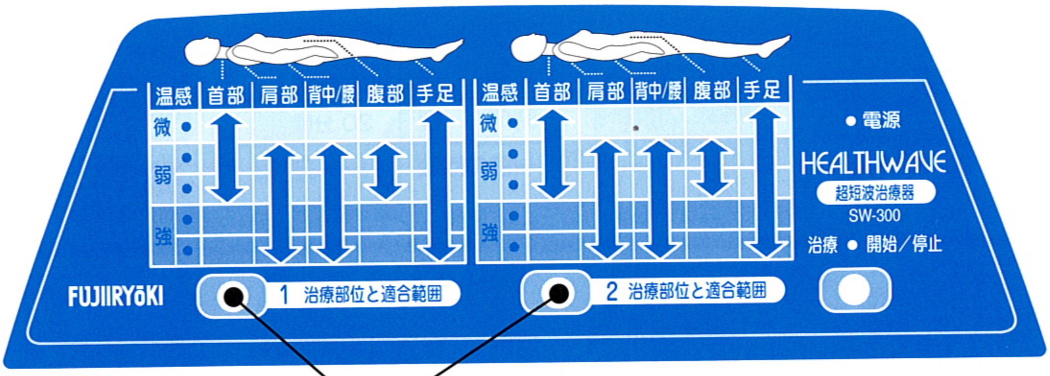
1. 症状と目的に合った時間と温感を必ず守ってください。（個人差があります。多少の増減はかまいません。）
2. 使用当初は、温感・治療時間は標準より設定を少なめにしてください。（使い始めは温感選択を「微」にし、同一箇所10分以内でご使用ください。）
3. お子様の場合、出力は弱めにするとともに時間を短くしてください。
●3～6歳…成人の約2分の1　●7～12歳…成人の約3分の2　●13歳以上…成人とほぼ同じがめやすです。
4. 高齢者の方は、温感・治療時間は標準より設定を少なめにしてください。
5. 導子を並べてあてる場合は3cm以上離してください。
6. 炎症がある箇所にはご使用をおひかえください。
7. 両足を合わせた状態で、足の左右外側から導子を当てる治療はしないでください。（火傷の原因になります。）
※ 温感の選択について…適合範囲内の快い温感を感じる強さに設定してください。ただし、体質により火傷を起こすことがあり、最初は時間を短めにしてください。
※ 使用中に“熱い”と感じた時は、出力を弱くするか使用を一時中断してください。
※ 導子は折りたたんだり、きつく丸めたりして使用しないでください。
8. 治療中に超短波導子やコードが素肌に触れないようにご注意ください。導子やコードを動かす場合は、一度電源を切ってください。

HEALTHWAVE

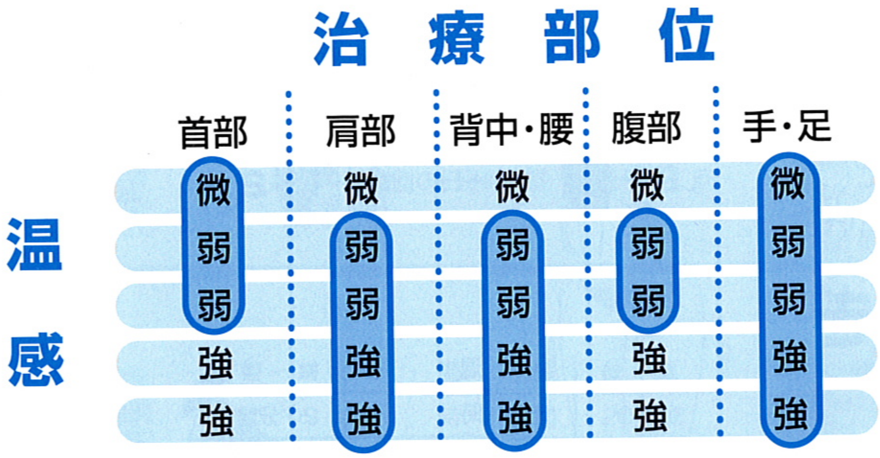
使用にあたって―準備―

治療に効果的な出力

操作パネルには治療部位に適した温感の選択範囲を矢印で表示しています。



導子が接続されている方のスイッチを操作し、治療をしたい部位に応じた温感を選択します。



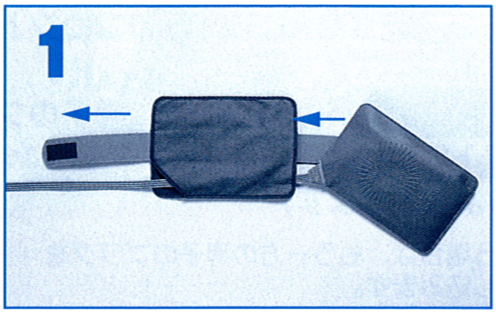
※温感「微」は、ほとんど温感がありません。

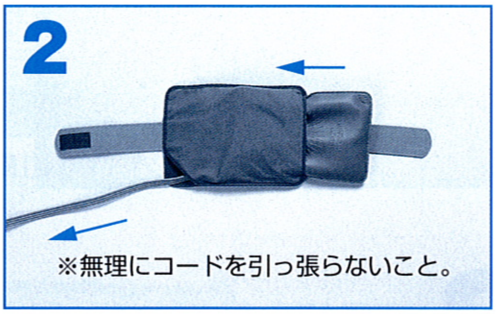
⚠準備の注意

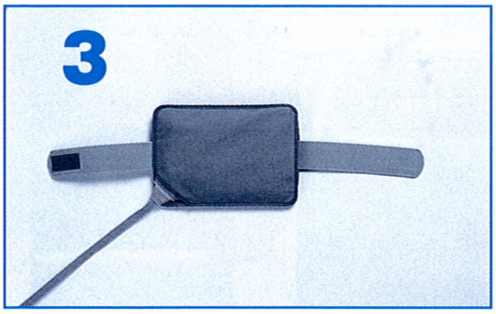
- 導電性の衣類を着用して治療しないでください。
- 使い捨てカイロやネックレス、ベルトなどの金属類は体から外してください。
- 導子は素肌の上から直接あてないでください。必ずベルト付導子カバーを使ってください。また、温感が強い場合は、タオルなどをあてがい、温感を弱めてください。
- 治療部位が汗で濡れていたり、塗り薬などが塗られている場合は拭き取ってください。
- 濡れている導子は使用しないでください。
- 2つの導子を使う場合は導子を重ね合わせないでください。また、2つの導子コードが絡み合ったり、巻きついたりしないようにしてください。

超短波導子のセットの仕方

導子をベルト付導子カバーに入れる







1 導子の◌マークとベルト付導子カバーの裏側（コードを通す穴が見える方）とを上向きにし、導子プラグとコードを穴に通します。

2 入り口が導子が抜けないように若干狭くなっているので、導子をやや丸めながら入れます。

3 導子全体をカバーに納め、ベルト付導子カバーに入れた導子を平らに伸ばしてください。

※導子は必ずベルト付導子カバーに入れて使用してください。
※この時無理にコードを引っ張らないでください。

超短波導子の当て方

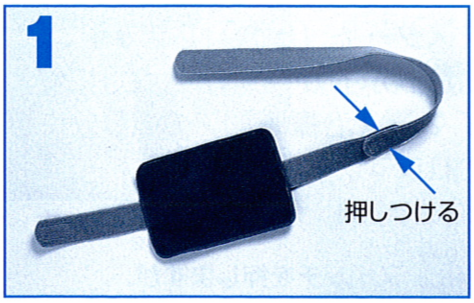
マジックベルト（S）を使い長さを調節する

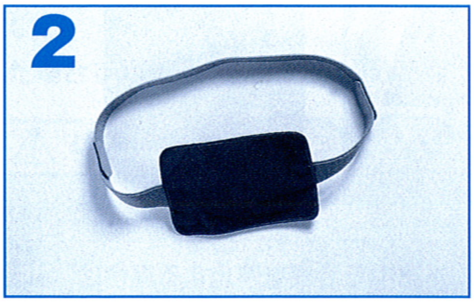
● 導子を治療部位に当てる場合に、ベルト付導子カバーに付いているマジックベルトでは長さが足りない場合には、付属のマジックベルト(S)を使って長さを調節してください。

1 マジックベルト(S)のマジックテープ部分を、ベルト付導子カバーのマジックテープの付いていない方に貼り付けます。

2 治療する部位に導子を当てたら、ベルト付導子カバーに付いているマジックテープ部分をマジックベルトかベルト付導子カバーの適当な場所に貼り付けて固定してください。

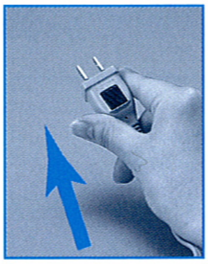
※治療の際にはベルト付導子カバーの裏側（カバーの色の薄い方、導子では◌マーク側になります）を必ずからだ側にしてください。裏側（導子の◌マーク側）がからだ側にきていないと十分な治療効果が得られません。

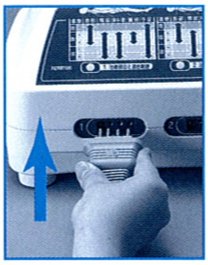




使用順序

1 プラグを差し込む

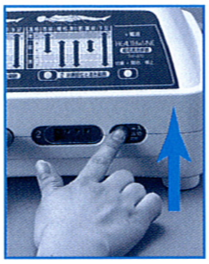




- 「超短波導子の当て方」（16ページ）に従いあらかじめ導子を治療部位に固定しておいてください。
- 電源コードのプラグをAC100Vコンセントに差し込みます。
- 「準備」で治療する部位に固定した**導子のプラグを出力口1**に差し込みます。（導子プラグの㊤が表にくるようにします）

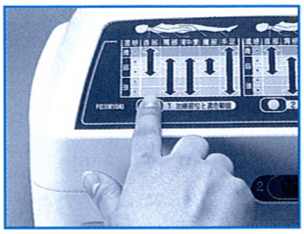
※導子を2つ使う場合は、もう一方の導子のプラグを出力口2に差し込みます。

2 電源を入れる



- **電源スイッチ**を押して、電源を入れます。
- **電源表示**が点灯し、**「治療表示」**、および温感表示**「微」**が点滅します。

3 温感を選択する



- 操作パネルの図に合わせて**治療したい部位**に応じた温感を**「1 治療部位と適合範囲」スイッチ**を押して選択すると温感表示が点滅から点灯に変わります。
- **「1 治療部位と適合範囲」スイッチ**を1回押すごとに**温感表示**が「微」→「弱」→「弱」→「強」→「強」→「微」と切り替わります。

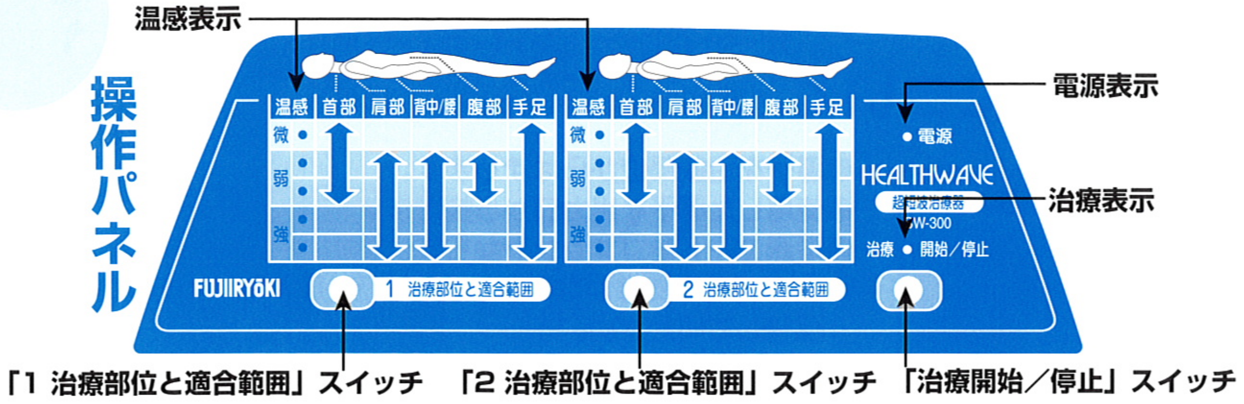
※導子を2つ使う場合は、「2．治療部位と適合範囲」の操作パネルでも同様の操作で温感を選択してください。

4 治療を開始する

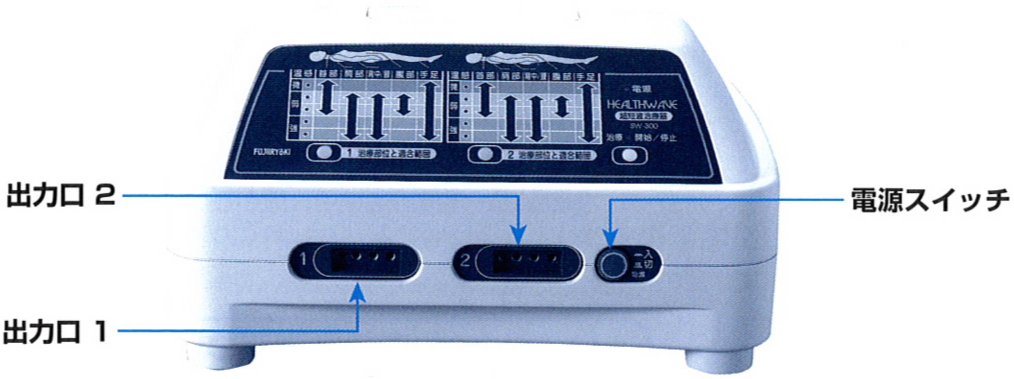
- **「治療開始／停止」スイッチ**を押して治療をスタート（出力）します。
- **「治療表示」**が点滅から点灯に変わり、タイマー（治療時間）が**20分**に自動設定されます。

※途中で治療を停止する場合は、「治療開始／停止」スイッチを押しますが、詳しくは次のページ「治療を中断する場合」をお読みください。

操作パネル

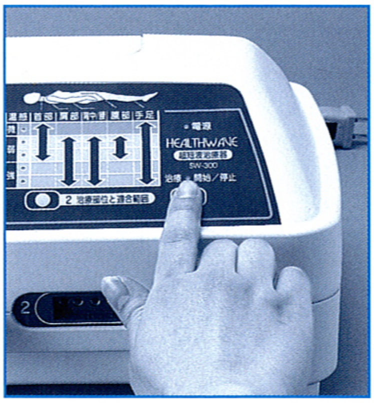


本体正面



治療の終了、継続する場合

- 治療が終了すると電子音がピーピーピー…と8回鳴り、出力が自動的に切れます。
- 同時に「治療表示」が点灯から点滅に変わります。
- 治療を引き続き行う場合（継続）は、「使用順序**3**：温感を選択する」に戻り、手順に従ってください。
- 治療を終了する場合は、電源スイッチを押して電源を切ります。
- 電源が切れると「電源表示」と「温感表示」の点灯と「治療表示」の点滅が消えます。



治療を中断する場合

- 治療を中断する場合は、「治療開始／停止」スイッチを押します。
- 「治療表示」が点灯から点滅に変わり、出力が停止します。
- 治療を再開する時は、「使用順序**3**：温感を選択する」に戻り、手順に従ってください。

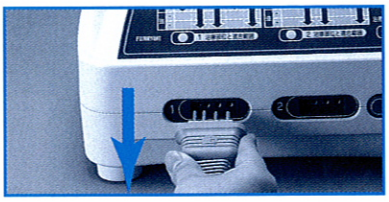
※治療の中断後、再開した場合でもタイマーは再度20分に設定されます。

⚠ 中断時の警告

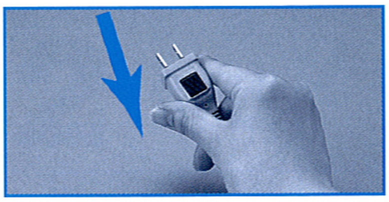
- 長時間の治療の中断は、必ず電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用中の導子を本体や金属類（電気製品、ラメ入り畳や座布団など）の上に置かないでください。熱を持ち事故や故障の原因となります。

使用順序

整理、保管について



- 導子を治療部位からはずします。
- 使用した導子を出力口から抜きます。
- 電源コードをコンセントから抜きます。
- 次の使用に支障がないように本体及び付属品を清潔にし、保管してください。



⚠ 終了時の警告

- コード類を抜く時は、プラグを持って抜いてください。
- 導子は折りたたんだり、きつく丸めたり、重い物を乗せたりしないでください。
- コード類は傷つけたり、破損したり、無理に引っ張ったり、ねじったりしないでください。
- 温度、湿度の高い所、ほこりの多い所に保管しないでください。

「ピピピ…」エラー音について

使用にあたり、導子のプラグが出力口に正しく差し込まれていなかったり、使用中に抜けてしまった場合、「温感表示」が点滅（点滅速度が速い）し、同時に「ピピピ…」と電子音が8回鳴りますので下記の操作を行ってください。

1．使用する前の場合は、

①電源スイッチで電源を一旦切ります。
②導子プラグを使用する出力口に確実に差し込みます。
③電源スイッチを入れて、「使用順序**3**：温感を選択する」より始めてください。

※それでもエラー音が鳴るような場合は使用を中止し、ご購入先またはフジ医療器サービス網へお問合せください。

2．使用中導子がぬけた場合は、

①導子プラグを差し直します。
②「治療開始／停止」スイッチを押します。（治療が再開します）
③残り時間だけ治療が継続します。

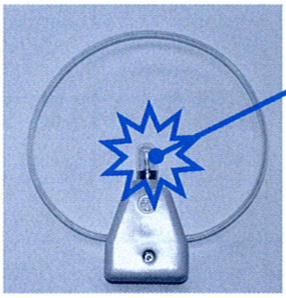
⚠ 使用中の警告

- 濡れた手でプラグの抜き差しをしないでください。
- 使用中プラグの抜き差しをしないでください。
- コード類の抜き差しはプラグを持って行ってください。
- 治療中は温感の切替えはできません。
- 他の人や金属類に触れないでください。
- 導子の温感が高いと感じたら使用を中止してください。
- 汗をかいたら汗を拭き取ってください。
- 本器や体に異常を感じたら使用を中止してください。

HEALTHWAVE

検波器の使い方

～超短波の出力を確認する～



ランプ
超短波が出力していると
ランプが発光します。

使用例

検波法

1 使用前の「準備」から「使用順序**4**:治療を開始する」までの手順に従ってください。

- 導子をセットする。
- 導子のプラグを出力口に差し込む。
- 電源を入れる。
- 治療したい部位にあった温感を選択する（「治療部位と適合範囲」スイッチを押す）。
- 治療を開始する。（「治療開始／停止」スイッチを押す。）

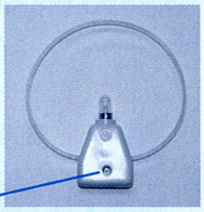
2 検波器を手に持ち、治療開始状態の導子に近付けます。（上の写真：使用例参照）

3 検波器のランプが約2秒おきに発光します。（正常です。）

⚠検波法のご注意

- 他の製品の検波器を使用しないこと。ランプが切れる恐れがあります。
- 導子コードが絡んだり、巻き付いた状態で行わないこと。ランプが常に点灯している状態になったり、ランプが切れる恐れがあります。

※使用しているとランプがゆるむことがあります。発光しなかったり、外れる恐れがありますのでランプ（ネジ部分）をゆっくりと確実に締めつけてください。
※導子のあて方などにより発光に差が生じることがありますが、出力には問題ありません。
※発光しない、発光が弱い・強い場合などは小さなドライバー等を使い、「調節ネジ（右写真）」を左右にゆっくりと回してください。発光を調節することができます。
※ランプが切れた場合、新しいものと交換してください。(6.3V/0.15A)



調節ネジ
ネジは表と裏にありますが、
小さい方のねじで調節します。

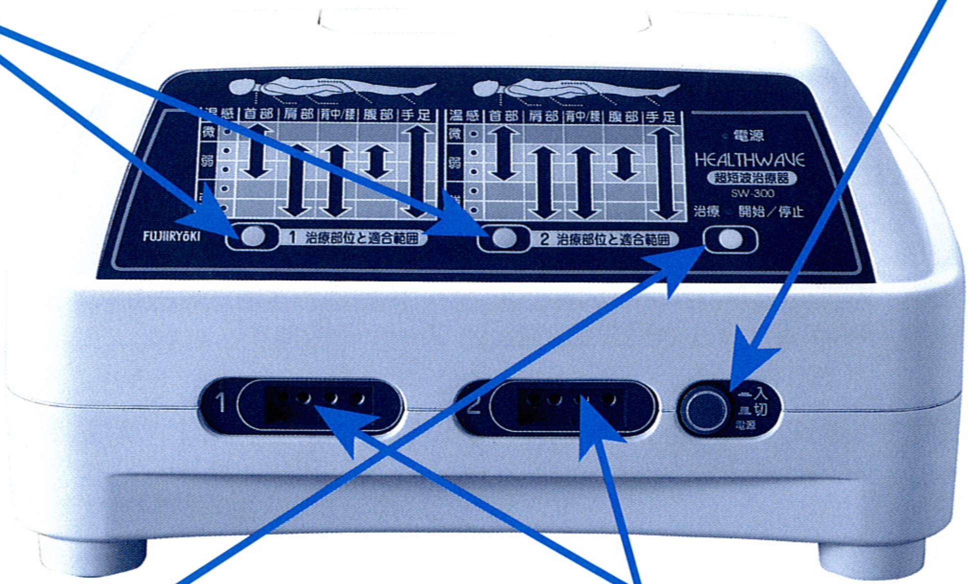
操作早わかり

はじめに

①超短波導子を治療する部位にあて、マジックベルトで固定してください。
②電源コードをコンセントに差し込み超短波導子のプラグを出力口1に差込んでください。
（導子を2つ使う場合には出力口2にも同様に差し込んでください。）

1 電源スイッチを押して電源をいれます。

2 「1治療部位と適合範囲」スイッチを押して治療したい部位にあった温感を選びます。
（導子を2つ使う場合は「2 治療部位と適合範囲」スイッチも同様に操作します）



出力口―導子プラグの差込口

3 「治療開始/停止」スイッチを押して治療を始めます。

本取扱説明書の注意事項をよくお読みになり正しくお使いください。

使用後

電源スイッチを切り、導子のプラグを抜いてください。
その後、電源コードのプラグを抜いてください。

HEALTHWAVE

故障かなと思ったら

こんな時は	ここを点検してください	対応の仕方
動作しない 「電源表示」が点灯していない。	電源コードのプラグが抜けていませんか?	電源コードのプラグをコンセントに差込んでください。
	電源スイッチが「切」になっていませんか?	電源スイッチを「入」にしてください。
動作しない 「温感表示」が点灯(点滅)していない。	超短波導子のプラグが抜けていませんか?(差し込み不十分)	電源スイッチを切り超短波導子のプラグを差込んでください。
「治療開始/停止」スイッチを押しても「治療表示」が点滅から点灯に変らない。 温感表示が点滅している。	温感の選択をしましたか?	「治療部位と適合範囲」スイッチを押し、温感の選択をしてください。(温感表示が点灯する) *2つの導子を使う場合、1、2、それぞれ選択してください。
治療中に「ピ・ピ・ピ…」と電子音が8回鳴った。 「治療表示」が点灯から点滅に変った。	超短波導子のプラグが正しく差し込まれていなかったり、抜けていませんか?	プラグを差し、「治療開始・停止」スイッチを押してください。残り時間だけ治療が継続します。
治療中に「ピーピーピー」と電子音が8回鳴り、「治療表示」が点灯から点滅に変った。	20分の治療時間が終了しました。異常ではありません。	再度治療を行う場合は、「使用順序**3**:温感を選択する」から始めてください。(17ページ)
検波器が発光しない	使用方法は間違っていませんか?	検波器の使い方にしたがって使用点検してください。(20ページ)

修理サービスについて

故障かな?と思ったら、上記に従って調べていただき、なお異常がある時は、使用を中止し、コンセントから電源コードを抜いてから、ご購入先にご連絡ください。

1.保証書(別に添付してあります)

お買上の際に保証書をご購入先からお受け取りになり、「お買い上げ日」、「ご購入先名」欄の記入をご確認のうえ、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

2.保証期間中に修理を依頼される場合

この商品の保証期間は、お買い上げの日から1年間です。ご購入先にご相談ください。保証書の記載内容に従って修理いたします。
(なお、保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。)

3.保証期間を過ぎて修理を依頼される場合

まずご購入先にご相談ください。修理により製品機能が維持できる場合には、ご要望に従い有料にて修理いたします。

4.その他のご不明な場合

保証期間中の修理など修理サービスについてご不明な点は、ご購入先、またはフジ医療器サービス網までお問合せください。

■補修用性能部品の保有期間

当社はこのヘルスウェーブの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低6年保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。